

文化薫道

◆其の五十三

城はどこにあったのか

ふと、身近な場所の地名に目を向けてみると、まだ、知られていない歴史や背景を知る楽しみがあります。

皆さんは、筑紫氏をご存じでしょうか。戦国時代、勝尾（かつのお）城（鳥栖市）を拠点として大友氏・島津氏などの有力大名に囲まれながらも領地を守っていました。時には、侍島（さむらいじま、大字下見）の合戦で大友氏を破るなどの武功も残した一族です。

筑紫氏は当初、筑紫村（大字筑紫）一帯を治めていました。では彼らの城はどの辺りにあったのでしょうか。城は現在の筑紫小学校周辺にあったと言われています。『福岡県地理全誌』によると、筑紫村の東側に小高き山があり「城の腰（越）」という筑紫氏の邸宅があったこと、「城の腰」の東には、砦（とりで）の跡とされる場所があり、村の北側には「裏門」があったこと、その南に「矢倉」があったこと、これらは全て「城

の腰」から続いて高い場所にあったことなど、城館に関すると思われる内容が書かれています。



大字筑紫から北を望む（囲んだ部分は筑紫氏の城館とされる場所）

現在の筑紫小学校は小高い丘陵上にあり、「城の越」「矢倉」「裏門」などの小字名が残ることからもこのあたりに城があったのではないかと推測されています。

小字名から推定される場所が大字永岡にもあります。筑紫氏の城の一つであった長岡城です。『福岡県地理全誌』によると、筑紫廣門（ひろかど）の砦が村の中の「城の内」という所にあり、今は宅地となっているとあります。現在の永岡八幡宮周辺の小字が「城の内」であることから城があったのではないかと推測されています。歴史は、地名の中に息づいていると思いませんか。

問い合わせ先／文化財課

